



東本郷

学校だより

令和3年12月1日発行
川口市立東本郷小学校
TEL: 284-8076

元気いっぱい やる気いっぱい 笑顔いっぱい 東本郷小

すてきな言葉があふれる学校を目指して

校長 朝倉 伸行

校内の桜やイチョウの木が落葉し、正門のカイノキが赤く鮮やかに色づくなど日々季節の移り変わりと寒さの深まりを感じています。11月は、持久走の取組を行いました。朝ののびのびタイムや2時間目と3時間目の授業の間に設定されている休み時間を利用してのランランタイムでは、学年ごとに設定された時間の中で自分のペースで走り続けることをねらいとし、日々の走る運動の積み重ねにより、児童の運動に対する意欲と体力の向上を図ってきました。個人の目標と学級の目標を掲げ、一人一人がコツコツと走り続ける児童の姿はとともたくましく、印象的でした。保護者の皆様には、ひと月にわたるお客様の体調管理とコードモンによる参加報告のご協力に感謝申し上げます。

ここで、先日、ある学年の教員から聞いた心温まるエピソードをお知らせします。事の始めは、「先生、社会に役立つことをぼくたちはしました。」という一人の児童からの学級担任への報告だったそうです。詳しく話を聞いてみると、蓮沼公園で子供たち十数人が落ち葉を集めたということでした。はじめは落ち葉拾いの遊びの延長で、山になった落ち葉をゴミ箱の近くに置いたところ、翌日には大きなビニール袋に落ち葉が入れられていたそうです。そこで、子供たちは、誰かが公園を掃除してくれていることに気づいたようです。また、子供たちは道徳の学習のことを思い出し、『みんなで使う場所を大切にすることが、その場所を使う人々の心地よさに繋がること』の気づきと重なり、自分たちも公園をきれいにしようと、その後も落ち葉拾いを続けたそうです。ゴミ箱は常に鍵がかかっていたので、落ち葉はゴミ箱の脇に山積みになっていたのですが、その度に落ち葉はビニールに入れられていたそうです。このことを学級担任が児童に伝えたところ、「今日も行こう」と声をかけ合う姿が見られたということでした。私に報告する教員が笑顔であったことが印象的でした。また、子供たちが地域を大切にしている方の存在に気づき、自発的に行動したという話を聞いて、私自身もほっこりさせられました。

いよいよ12月。師走を迎えました。7日は、二十四節気の『大雪』です。本格的な冬の季節の到来です。この季節、冷たく澄んだ空気の中、夜空高くに凍ったように明るく光る月は、見ただけで心が洗われるような気がします。

また、今月10日は、国際連合が定めた『人権デー』です。それを受けて、わが国では、毎年12月4日から同月10日までを『人権週間』と定めています。その期間中、人権に関する人々の意識を高め、平和で、人に優しい社会をつくるため、全国各地でさまざまな啓発活動が展開されています。本校では、「私たちが幸せに生きるための権利で、世界中の誰もがもっている権利」である、人権に対する理解と意識を高める取組を行います。

ここで、詩人、金子 みすゞ さんの詩を紹介します。

こだまでしょうか

金子 みすゞ

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう。
「馬鹿」っていうと 「馬鹿」っていう。
「もう遊ばない」っていうと 「遊ばない」っていう。
そうして、あとで さみしくなって、
「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

言葉はこだま。言葉はもう一人の自分です。『人権』という二文字の意味を正しく理解し、常に意識して行動できる人になるためには、自分の『言葉』について考えることが大切です。どんな言葉を知っているか、どんな言葉を使うかで、『考え方』の伝わり方も、人との『かかわり方』も変わっていきます。日頃から言葉を大切にすることで、皆が言葉に関する感性を磨き、そして、すてきな言葉があふれる学校にしていきます。